



野々口眞由美 議員
(TSUNAGU)

問 中学生の自転車利用について

不審者対策として自転車利用を求める声は多い。部活動遠征や職業体験は利用を可能とし、通い慣れた通学では認めないという矛盾がある。生徒の命と安全は、場面により変わるのか。要望してから2年が経過した。できない理由は必要ない。取組について伺う。

答 検討委員会を立ち上げ引き続き検討する

生徒の命と安全を守るため、中学生の通学における自転車利用について、今後自転車利用検討委員会を立ち上げ、引き続き検討を進めていく。生徒や保護者など当事者の声や、中学校の生徒会等の考えを聴くなど、これらも参考にし、総合的に協議をしていきたい。

問 新白岡スーパーシティプロジェクト

目的を明確にするために、問題を把握することが重要である。参画と協働の観点からもLINEリサーチや意見交換のプラットフォームを導入し、幅広い年代の住民と意見交換をするべきである。地域住民の期待は大きい。一大プロジェクトを成功させてほしいが、いかがか。

答 ICT活用の市民参画を研究していく

多くの市民から御意見をまとめて施策に反映させることは大切である。誰もが好きな時に好きな方法で気軽に意見交換できるような環境を整備していく必要がある。そのため、ICTを活用した市民参画の方法の導入に向けて先進自治体等を参考に研究していく。



JR新白岡駅東口



関口昌男 議員
(日本共産党)

問 パートナーシップ宣誓制度の運用は

市では1月1日付けで「白岡市パートナーシップ宣誓制度」を開始したが、この制度を周知するためにどのような広報を行っているのか。さらに、都市間の連携の進行状況はどのようになっているのか。また、この制度を使ってどのようなことができるのか。

答 利用しやすい制度となるよう努めていく

市公式ホームページやツイッター、広報紙への掲載、公共施設へのポスター掲示を行っている。広域的に実施することで効果を発揮するため近隣自治体と協議を進めたい。宣誓制度により新たに受けられるサービスについて他自治体の取組を調査研究していきたい。

問 環境問題とゼロカーボンシティ宣言

市では、これまで環境問題に取り組んできたが、今日この課題は地球規模に広がりを持つようになった。そして、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることを目標に世界的取組が始まっている。市としてもゼロカーボンシティ宣言をしてはどうか。

答 脱炭素に向けた取組を強力的に進めていく

市民・事業者・行政が一体となって環境問題を克服し、将来にわたって豊かな自然環境を次世代に引き継いでいきたい。そのためにも、5年度中にゼロカーボンシティの宣言を行い、脱炭素に向けた取組を強力的に進めていく。

